

小学校外国語活動中学校英語教育研究部 研究報告（概要）

研究主題 中学校英語へスムーズに接続する小学校外国語活動の在り方について

概要説明

小学校5・6年生での外国語活動35時間実施に向け、各学校とも実践に移せるよう一気に動き始めた。一方で教師のまよい・子どものとまどいも大きくなっている。特に、異なった指導方法・内容を経験してきた子どもたちが一つの中学校区に入学してくる状況から生じるとまどいは大きい。そこで、「中学校への接続」を中心テーマに据え、①小学校で扱う英単語②小学校でのアルファベット指導③小学校での発音指導④アクティビティの工夫、以上4点について、実践研究する。小学校段階でスタートするからこそ培われる力を十分に積み上げ、かつ中学校英語により良い形で接続する小学校外国語活動の在り方を提案する。

本研究の〈キーワード〉

○中学校への接続 ○小学校で共通して扱うべき英単語 ○発音指導
○小学校でのアルファベット指導 ○アクティビティの工夫 ○授業提案

I 研究主題

「中学校英語へスムーズに接続する小学校外国語活動の在り方について」

II 主題設定の理由

1 小学校英語の現状と本研究部の役割

ここ数年、英語特区を受けた行政区の小学校あるいは文部科学省指定研究開発校などの実践から、英語活動の本格導入に向け準備を進める小学校が増えてきた。そして、平成20年1月の中教審答申、3月の学習指導要領改訂を受け、小学校5・6年生での外国語活動35時間実施に向け、「何をねらうか」「どう指導したらいいのか」「指導時間はどうするのか」「人材はどうするのか」様々なところから情報を集め、実践に移せるよう一気に動き始めた。かつて、生活科・総合的な学習の時間創設の際にもそうであったように、創成期独特の活気・熱気がある。

一方で、数年前から準備を進めていた学校と、他教科に重点を置いていた学校とで、もともと取組に温度差があった中で、一気に熱が上がったことから体制上の問題点や教師のまよい・子どものとまどいも大きくなっている。小学校外国語活動の現状には次に示す4つの問題点がある。

- (1) これまでの準備の進度に差があり、15～20時間を実施していた中で35時間実施に向け準備を急ぐ学校と、5～10時間を実施していた中で本格導入に向け準備を急ぐ学校など、それぞれの学校が急いでいるが集めようとしている情報が違い、うまく高め合っていない。
- (2) 中学校の指導内容の前倒しの是非や文字指導の是非、指導者の正しい発音が重要か否かなどに議論があるように、指導方法や指導形態、指導内容が学校ごとにまちまちである。
- (3) 上記(1)(2)より、異なった指導方法・内容を経験してきた子どもたちが一つの中学校に入学してくることになり、中学校教師が戸惑うばかりか中学校英語授業導入期の子どもたちに良い影響は与えない。
- (4) 時間数や指導形態など、いわゆる「形」を合わせることに追われてしまうと、小

学校外国語活動完全実施までの準備期間の2年間に有効に使えず、学習指導要領に示される外国語活動のねらいの理解、取組の方向性、指導方法、指導内容がまちまちなまま固まってしまう可能性がある。

こうした問題を解決しつつ、創成期の熱気の中でより良い小学校外国語活動の授業を創りだしていくには、やはりモデルを発信していく必要がある。その一端を担うことができるとするのが本研究部の願いであり、果たすべき役割であると捉えている。

2 研究テーマのしぼりこみ

問題解決のために、取組むべき課題は山積している。具体的には次の8つが挙げられる。

- 英語でコミュニケーションする力を育成するための義務教育 9年間を見通したカリキュラム（指導段階）の見直し
- AET 配置体制の充実
- 小学校教師の英語授業に関するスキルアップ
- 指導内容・題材の統一
- 指導方法の確立
- ローマ字指導・アルファベット指導の改善
- 英語ノートの活用法
- 教材の整備

しかし、上記の全てを本研究部で扱っていくことは物理的に不可能である。そこで、本研究部では、既に問題として表出している「中学校英語への接続」を中心テーマに据える。指導内容の統一やアルファベット指導などテーマを追究する過程で関連して解決される課題が多くあり、子どものとまどいの解消につながると考えるからである。それには、小学5年～中学3年の5年間を見通し、中学校英語により良い形で接続する小学校外国語活動の授業と、小学校で培われてきた力を生かす中学校英語の授業とを創りだしていかなければならないが、前項でも述べた通り特に喫緊の課題である小学校外国語活動の授業づくりに取組を絞り、具体的な提案をしたいと考え、本研究テーマを設定した。

III 研究の内容および方法

1 研究の方向性（研究部委員による協議と小学校教師・中学校教師へのリサーチから）

本来、本研究では、先に挙げた課題「コミュニケーション力を育成するための義務教育 9年間を見通したカリキュラム（指導段階）の見直し」から取り組み、地に足をつけ具体策を講じていくべきである。しかし、研究の規模（人数や期間など）なども鑑み、本来の研究の方向性を念頭に置きつつ、既に問題を抱えている現場の教師の声から取組の柱を設定することとした。

研究部委員のリサーチでは、中学校英語教師からは「アルファベットに慣れてほしい。」「せめて名前を英語で書けるようにしておいてほしい。」「中学校に上がってくる複数の小学校で、子どもの英語への慣れ、既習の内容が違いすぎる。これを何とかしてほしい。」「英語に慣れた状態で上がってくる。AET と何の違和感もなく触れ合えていてありがたい。」「小学校では、英語の歌をたくさん扱って体全体で吸収してほしい。」「小学校教師からは「英語に慣れ親しむことしかできない。」「正しい発音をと言われると苦しい。」「発音指導や文字指導はしなくてよいのだろうか。」といった声が聞かれた。こうした声から、取組の柱を設定し策を

講じる作業は、適切な表現ではないかもしれないが、小学校と小学校・小学校と中学校を繋ぐ線を増やし、一本一本の線それぞれに何を・いつから・どのようにという観点で色をつけていくイメージで進めていきたい。小学校と小学校の線はみなほぼ同じ色になり、小学校と中学校との境界は、一本の切れ目でなく、線で紡がれるとともに線の色によって繋ぎ目の模様ははっきりとしてくる。結果として、中学校の先取りのような形となる内容・方法もあれば、中1後半と中2後半に生徒の取組が大きく変化するポイントがあることを踏まえ小学校の後を引くような形で生かされる指導法もあるかもしれない。

いずれにせよ、中学校の前倒しか否かということではなく、学校間の差なく、子どもが英語に慣れ親しみ自然に吸収する形で基礎を培い、加えて、小学5年～中学3年の5年間とりわけ小学校段階と中学1年とを有効に段階的に積み上げていくために、小学校ではどのような内容を・どの段階から・誰が・どのような教材を使って・どのような方法で指導していくべきか現段階で確立したカリキュラムを提案していく。それが課題解決への有効な策となり、さらに今後の研究の礎になればと願う。

2 研究の内容

上で述べたような経緯から、本研究で取り組む内容は以下の事柄である。

- (1) 所沢市内小学校で共通して扱うべき単語の選定
- (2) アルファベット指導
- (3) 発音の指導
- (4) 自然な発話を生むアクティビティ（言語活動）の工夫
- (5) (1)～(4)それぞれの要素を組み合わせた授業提案

3 研究方法の概要

- (1) 所沢市内小学校で共通して扱うべき単語の選定については、日常会話で使用頻度が高いものや英語でコミュニケーションを図るときに必要度が高いものなど、生活場면을ベースに選定し、一覧表を作成する。
- (2) アルファベット指導については、先行研究を参考に指導内容と方法を提案する。研究授業・研究協議を通して検証する。
- (3) 発音の指導については、既存の習得プログラムや先行研究を参考に年間を通して行える指導方法を具体的に提案する。研究授業での検証を含め、授業実践を通して指導内容・指導方法について検証する。
- (4) 自然な発話を生むアクティビティの工夫については、先行研究を参考に活動を構成し提案する。研究授業・研究協議を通して検証する。
- (5) (2)～(4)を組み合わせた授業提案については、研究員の協議から1単位時間の学習過程を提案する。研究授業・研究協議を通して検証する。

IV 具体的な提案および実践

1 小学校で共通して扱うべき「英単語」の選定

- (1) ねらい
 - ①小学校段階での共通指導による、中学校入学段階での既習のばらつき改善
 - ②小学校の学級担任と中学校英語科教諭の共通理解による、指導の一貫性の確立
- (2) 選定の方法

単語の選定に際しては、「英語ノート（試作版）の巻末『英語ノート』で取り扱われる主な語彙の一覧」と所沢市内で使っている教科書「SUNSHINE ENGLISH COURSE 1の巻頭」に重複している単語を中心に、特に①日常、身近に触れているもの②発達段階上の難度が適切であるもの③日常会話で使用頻度が高いもの④英語でコミュニケーションを図るときに必要な度が高いものをピックアップする。

(3) 提案内容

①小学校で共通して扱うべき英単語一覧 ☆印・・・英語ノートで取り扱われる主な語彙

数字 (22)

zero	零、0	☆ eleven	11、11の
☆ one	1、1の	☆ twelve	12、12の
☆ two	2、2の	☆ thirteen	13、13の
☆ three	3、3の	☆ fourteen	14、14の
☆ four	4、4の	☆ fifteen	15、15の
☆ five	5、5の	☆ sixteen	16、16の
☆ six	6、6の	☆ seventeen	17、17の
☆ seven	7、7の	☆ eighteen	18、18の
☆ eight	8、8の	☆ nineteen	19、19の
☆ nine	9、9の	☆ twenty	20、20の
☆ ten	10、10の	☆ thirty	30、30の

フルーツ (10)

☆ apple	リンゴ	melon	メロン
☆ banana	バナナ	strawberry	イチゴ
lemon	レモン	cherry	サクランボ
pineapple	パイナップル	☆ peach	モモ
orange	オレンジ	grape	グレープ

食べ物 (8)

☆ cabbage	キャベツ	☆ pizza	ピザ
☆ steak	ステーキ	☆ salad	サラダ
☆ spaghetti	スパゲッティ	☆ juice	ジュース
ham	ハム	hamburger	ハンバーガー

月の名前 (12)

☆ January	1月	☆ July	7月
☆ February	2月	☆ August	8月
☆ March	3月	☆ September	9月
☆ April	4月	☆ October	10月
☆ May	5月	☆ November	11月
☆ June	6月	☆ December	12月

天候 (4)

sunny	晴れた	rainy	雨降りの
cloudy	くもりの	snowy	雪の降る

スポーツ (6)

tennis	テニス	☆ baseball	野球
☆ soccer	サッカー	☆ basketball	バスケットボール
☆ swimming	水泳	☆ volleyball	バレーボール

曜日の名前 (7)

☆ Sunday	日曜日	☆ Thursday	木曜日
☆ Monday	月曜日	☆ Friday	金曜日
☆ Tuesday	火曜日	☆ Saturday	土曜日
☆ Wednesday	水曜日		

動詞 (4)

☆ like	～が好き	am
play	(競技・遊びなど)をする	is
☆ want	～がほしい	are
have	～を持つ、もっている	

生き物 (15)

☆ bear	クマ	☆ gorilla	ゴリラ
☆ bird	鳥	☆ kangaroo	カンガルー
☆ cat	ネコ	☆ koala	コアラ
☆ elephant	ゾウ	☆ lion	ライオン
☆ fish	魚	☆ panda	パンダ
☆ giraffe	キリン	☆ sheep	ヒツジ
☆ dog	犬	☆ rabbit	ウサギ
☆ penguin	ペンギン		

身の回りの物 (9)

☆ car	自動車	☆ book	本
☆ T-shirt	Tシャツ	☆ pen	ペン
☆ sweater	セーター	☆ bag	かばん
☆ skirt	スカート	☆ sock(s)	くつ下
☆ cap	(ふちなし)帽子、野球帽		

気持ち (8)

bad	いやな、不愉快な	great	気分がいい
fine	元気で	☆ happy	うれしい、楽しい
good	心地のよい、楽しい	☆ sorry	すまないと思う
☆ hungry	空腹の	☆ sleepy	眠い

色 (7)

☆ black	黒い、黒色の	☆ red	赤い、赤色の
☆ blue	青い	☆ white	白い、白色の
brown	茶色の	☆ yellow	黄色の
☆ green	緑(色)の		

季節 (4)

spring	春	fall	秋
summer	夏	winter	冬

疑問詞 (8)

what	物・ことを尋ねる	whose	所有者を尋ねる
who	人を尋ねる	which	選択を尋ねる
when	時を尋ねる	how	状態を尋ねる
☆ where	場所を尋ねる	how many	数を尋ねる

方向 (4)

☆ left	左の(に)	front (forward)	前、前へ
☆ right	右の(に)	back	後、後へ

代名詞 (3)

I	私は、私が	it	天候・寒暖・時間をさす
☆ you	あなたは、あなたが		

その他 (3)

☆ name	名前	☆ can	～できる
☆ please	依頼するときに使う		

②活用の仕方

- ・児童の理解を助け、心理的なストレスを軽減するために、有効に文字を提示する。
- ・「絵」、「実物」、「実演」の提示による理解を促すことと、文字を補助的に提示することを併用し、言語活動を円滑に進める。

2 アルファベットの指導方法についての提案

(1) ねらい

英語学習を想定に入れ、小学校段階から第一歩をスタートさせる文字指導の提案

①ローマ字指導の改善

②アルファベット26文字（大文字・小文字あわせて52文字）への慣れ

(2) 提案方法の詳細

ローマ字指導については、改善の視点を具体的に提案する。

アルファベット指導については、1年間の活動の中でトピックス的に取り入れていける活動を例示するとともに、指導の際の留意事項を明らかにする。例示する活動の内の1つ「単語を書き写す活動」を提案授業での活動に取り入れ検証する。詳細は、「4 授業提案」の項においてまとめる。

(3) ローマ字指導の改善およびアルファベット指導の導入についての提案

①ローマ字指導における改善の視点

(1)ひらがな50音の表の通りに5つの母音（a i u e o）、及び、それが他の文字と組み合わせられ成り立っていることを、表を用いて指導する。

(2)固有名詞や氏名以外では、できるだけ小文字を使用する。

(3)ローマ字は「ヘボン式」での指導を徹底してもらい、将来、英語学習では「日本式」で不都合が多い点を強調しておきたい。特に、外国人にはヘボン式でないと正しく読んでもらえないことをあげて、「例外的」な扱いで正しく教えていく。

(例) シ[shi]、チ[chi]、ツ[tsu]、フ[fu]、ジ・ヂ[ji]、ズ・ヅ[zu]

(4)のばす音（促音）、つまる音（撥音）の表記の例

納豆=natto 大野=Oh no /Ono 小野=Ono

太郎=Taro 優子（ゆうこ）=Yuko

由香=Yuka=優香 東京=Tokyo

(5)目標として、自分の氏名は全員書けることを求めたい。

(6)その他では、都道府県名や市町村名、及び外国人に紹介する機会の多い日本語を中心に書く指導を進めていくとよい。（ヘボン式の活用にもつながる）

②アルファベット指導の具体的指導例

文字に親しむことを前提とし、これまでは中学校1年生の入門期で行われてきた指導をより気軽に52文字すべてを覚えることを目標としたい。

○アルファベットソング

（ABCDEFGH…）を「きらきら星」のメロディーで歌うおなじみの「ABC…」の歌等

○アルファベットかるた

大文字・小文字のカードを用意し、教師の発音に合わせてカードを取っていく。

3 発音の指導方法についての提案

(1) ねらい

英語でコミュニケーションする力を育成するための土台づくりの提案

- ①小学校の極力早い段階からネイティブの発音に触れることによる「聞く耳」の育成
- ②日本語にない英語音の練習

(2) 提案方法の詳細

「音に着目する指導」と「ビンゴを取り入れた発音指導」について、それぞれ1単位時間の中の10分程度を使い、年間を通し継続して取り組める方法を提案する。

「音に着目する指導」の方法については、以下に年間計画、実践事例、効果の検証についてまとめる。

ビンゴを取り入れた発音指導については、所沢市立若狭小学校 小林泰義教諭の先行実践を提案授業での活動に取り入れ検証する。詳細は、4授業提案の項においてまとめる。

(3) 音に着目する指導法の提案

アルファベットのそれぞれの文字を持つ音（音素）と文字の順序（つづり）の結びつき（規則）を教えることで、読む能力を高める。たくさんの言葉を習得した後、帰納的につづりと音の規則を学習する。既習の語彙を使って教えることが大切である。ルールを教えることにこだわりすぎないように注意する必要がある。

自分の力で読めるようになるとともに、自分が英語で話すことを文字で確認できるようになり、中学校英語への接続が容易になると考える。

【留意点】

◎やるとよいこと

- ・だれもがわかるように、必ず音声から文字という順にする。
- ・アルファベットのたしざんをしっかり指導しみんなが読めるようにする。
- ・日常生活の中にある英語の単語を読めるようにして自信をつける。
- ・知っている歌や絵本などを文字で確認する。

●やらないほうがよいこと

- ・低学年から無理に文字を導入する。
- ・文字ばかり見せる。

(4) 年間計画

発音指導を、英語活動の1時間のうちの始めの6, 7分の帯で、通年行う。

授業	学習内容	活動
1	アルファベットの音①	歌に出てくる a~m の語彙と絵を線で結び、最初の文字を書く
2	言葉の最初の文字	歌に出てくる n~z の語彙と絵を線で結び、最初の文字を書く
3	アルファベットの音②	絵を見て単語の最初の文字を書いていく(a~m)
4	言葉の最初の文字	絵を見て単語の最初の文字を書いていく(n~z)
5	母音 a (3文字語) ①	3文字語と絵を結び、四線に正しく文字を書く
6	母音 a (3文字語) ②	空欄に a を書き入れて、3文字語1 2語を読む
7	母音 a (3文字語) ③	4×4のビンゴシートに単語を書き入れてビンゴをする
8	母音 e (3文字語) ①	3文字語と絵を結び、四線に正しく文字を書く
9	母音 e (3文字語) ②	空欄に e を書き入れて、3文字語1 2語を読む
10	母音 a と e (3文字語)	先生が2つの単語のうち1つを読み、生徒に単語を選ばせる
11	母音 i (3文字語) ①	3文字語と絵を結び、四線に正しく文字を書く
12	母音 i (3文字語) ②	空欄に i を書き入れて、3文字語1 2語を読む
13	母音 a と e と i (3文字語)	a, e, i を書き入れて3文字語を完成し、読む
14	母音 o (3文字語) ①	3文字語と絵を結び、四線に正しく文字を書く
15	母音 o (3文字語) ②	空欄に o を書き入れて、3文字語1 2語を読む
16	母音 a と e と i と o (3文字語)	a, e, i, o を書き入れて3文字語を完成し、読む
17	母音 u (3文字語) ①	3文字語と絵を結び、四線に正しく文字を書く
18	母音 u (3文字語) ②	空欄に u を書き入れて、3文字語1 2語を読む
19	母音 u (3文字語) ③	3文字語を自由に埋めて 4×5マスのビンゴをする
20	3文字語のフレーズ	8つのフレーズを読み、その意味に合う絵を選ぶ

(5) 活動例 (展開)

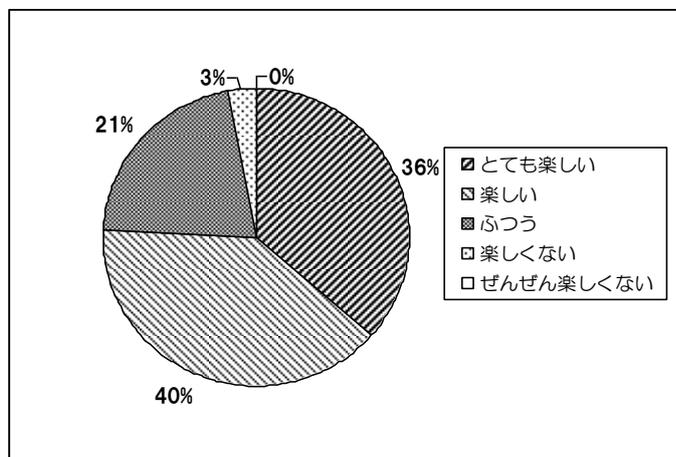
過程 (時間)	児童の活動	学級担任の活動	AETの活動	指導上の留意点	準備
Greeting (1)	<p>Hello, everyone! How are you? / I'm fine, thank you, and you? I'm fine, too. Thank you.</p>			<ul style="list-style-type: none"> ●元気よく挨拶する。 ●全体の挨拶の後にAET. ボランティア児童1人1人と挨拶する。 	
Song (3)	<p>1 歌 「You are my sunshine」 ①HRT と一緒に声を出して練習する。 ②CD に合わせ、元気よく歌う。</p>	<p>・元気に明るく歌う。</p> <p>評 明るく歌うことを楽しんでいるか。</p>			<p>歌詞 CD ラジ カセ</p>
Activity (6)	<p>2 アクティビティ ① 音に着目する指導 「発音神経衰弱」 ①絵カードの言葉とその最初のアルファベットの音を全体で練習する。 ②カードをお互いに見えないようにもらう。 ③最初のアルファベットの音だけを言いながら同じアルファベットの仲間を探す。 ④同じ発音の仲間が4人見つかったら座る。</p>	<p>・アイコンタクト、ボディラングイッジなどを使い、同じアルファベット (絵) の友達を見つけるやり方を説明する。 ・集まった仲間が同じアルファベットかどうか、クラス全員で確認する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●練習の意欲を持たせるため先にカードを配る。 ●発音が難しいもの、紛らわしいもの時には、once moreと児童が言うように指導する。 ●悪い例を担当がやってみせる。 ●発音の分からない児童にはボランティアやAETがつくように配慮する。 	<p>絵カ ード</p>
Flash Card (2)	<p>3 フラッシュカード (絵が中心のもの) ①HRT の後に続いて発音する。 ②2回、3回と続けて発音する。 ③リズムに合わせて発音する。</p>	<p>・フラッシュカードの見せ方や発音の仕方を工夫して楽しく活動できるようにする。</p> <p>評 リズムに合わせて発音することを楽しんでいるか。</p>			<p>フラ ッ シ ユ カ ード</p>



(6) 効果の検証

1 1月に行った発音の活動に関するアンケートでは、次のような結果となった。

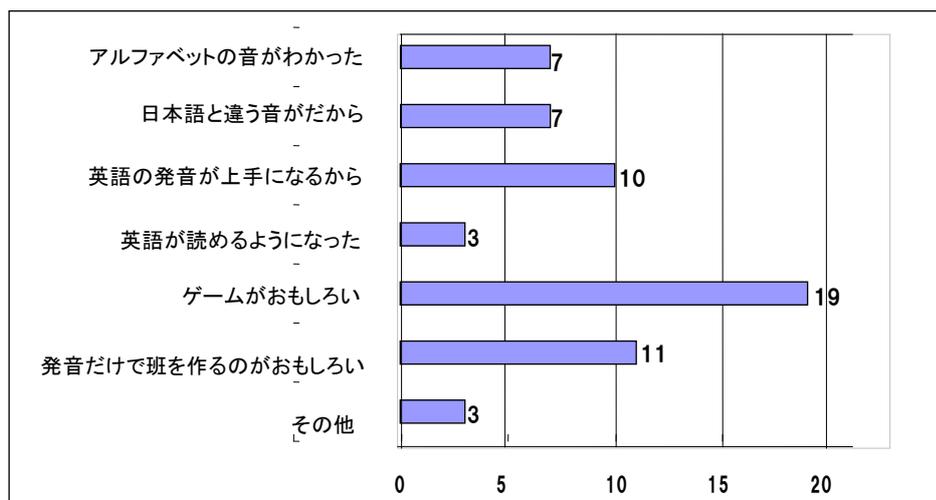
1、発音の活動は楽しいですか。(38/38人)



「とても楽しい」と答えた児童(14人)、「楽しい」と答えた児童(15人)となり、多くの児童が楽しく英語活動に取り組んでいると考えられる。

「ふつう」と答えた児童が8人、「楽しくない」という児童が1人いた。

2、楽しい理由を教えてください。(とても楽しい・楽しいと答えた児童のみ・複数回答)



理由としては、ゲームの面白さもあるが、音に関して、「日本語と違う」「アルファベットの音がわかった」などと、活動を通して発音を意識できるようになってきている。児童が、意識することで、「聞く耳」を持つことができ、中学校英語への接続も容易になると考える。

発音に関しては、児童の活動を通じた気づきの中で、意識することによって身に付く分野である。このアンケートから、「活動が楽しい」という思いの中に、「発音が上手になった」「英語を聞き分けることができるようになった」「英語が読めるようになった」という自分の成長への喜びを読み取ることができる。

4 授業提案

(1) ねらい

- ①発音、アルファベット指導、アクティビティ（言語活動）をバランスよく構成した一単位時間の学習過程の提案と検証
- ②楽しくコミュニケーションをとることができるためのアクティビティ（言語活動）の提案と検証
- ③楽しく発音する活動の内容と方法の検証
- ④アルファベット指導の内容と方法の検証

(2) 検証方法

①研究授業及び研究協議からの検証

平成20年11月12日（水）第5校時 所沢市立東所沢小学校第5学年1組

②児童の意識調査からの検証

平成20年11月28日（金）対象:所沢市立東所沢小学校第5学年1組児童38名

- 内容
- ・大きな声で恥ずかしがらずに発音することができたか
 - ・ビンゴをしながら発音する活動は楽しかったか
 - ・アルファベットを書き写すことができたか
 - ・書き写す活動は楽しかったか
 - ・自分の好き嫌いを話すこと、友達の好き嫌いを聞くこと、自己紹介をすることができたか
 - ・その活動は楽しかったか
 - ・積極的に友達とコミュニケーションをとることができたか
 - ・コミュニケーションをとることは楽しかったか

(3) 授業構想

- ①ウォームアップ・発音・アルファベット指導・アクティビティ（言語活動）の4段階の過程を取る。メインのアクティビティを後半に据える。
- ②もっとたくさん話したいという思いを高める工夫。
 - ・インフォメーションギャップを使ったゲーム性の工夫。
 - ・幅広くたくさんの友達と触れ合うルール工夫。
 - ・英語ノートからのアクティビティ。
- ③ビンゴを使って、ゲームの楽しさとともに発音の楽しさにつなげる活動を取り入れる。
- ④発音の活動で扱った単語の中から単語を書き写す活動を取り入れる。間違いやすい文字を含めたもの。適切な量となるよう4単語。

(4) 指導案

第5学年1組 外国語活動指導案

平成20年11月12日(水)

第5校時 5年1組 教室

児童数 男子20名 女子19名 計39名

授業者 花岡 志乃

1 単元名 自己紹介をしよう(好き嫌いをたずねてみよう)

2 単元について(児童の実態・教材観・指導観)

本校(本学級)ではこれまで、英語に親しむ機会、英語活動の時間が年間6時間程度と、多いとは言いがたい。そのような中、数少ないAETとの英語活動では、子どもたちは生き生きと活動している。とはいうものの、授業終了頃になってやっと楽しみ始めるという、慣れることに時間のかかる子がいるのも現実である。学級担任が英語の授業を展開することができれば、子どもたち、特に慣れることに時間のかかる子も、より英語に親しむことができるのではないか。

本単元ではまず、英語によるあいさつ及びwarm-upで、英語の学習に向けての雰囲気作りをする。warm-upには今回、絵ビンゴを取り入れた。ビンゴというゲームの持つ魅力により、自然に英語の発音をすることの楽しさを味わえるのではないかと期待する。

また、小学校の高学年は中学校の英語につなげる大事な時期と考える。中学校英語につなげる上で、アルファベットを書くことができることは、学習の基礎として欠かせない。ビンゴで出てきた、親しみのある単語を書き写す学習によって、アルファベットの定着も目指したい。

さらに、来年度からは5,6年生を対象に英語ノートも導入される。英語ノートで扱われている単元の中から、今回は自己紹介(Do you like~? Yes, I do. No, I don't. I like ~. I don't like~)を選んだ。身近な言葉を英語で表現して好き嫌いをたずねることは英語活動の経験の少ない子どもたちにも親しみやすく、楽しくコミュニケーションをとることができるのではないかと考える。

まずは、言ってみる、やってみることから英語に親しみ英語の魅力に気づき、自分から英語でコミュニケーションをとることができる子どもを育てたい。

3 単元目標

- ・日本語には様々な英語が起源の言葉(外来語)があることに気付く。
- ・友だちと積極的に好き嫌いを確認し合う。
- ・英語で自分の好き嫌いを相手に伝える。
- ・アルファベットを書き写す。
- ・友達と積極的にコミュニケーションをとる。

4 評価規準

- ・英語語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。

- ・英語語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。
- ・ビンゴで使った英単語（アルファベット）を書き写せたか。

5 単元計画

第1時	好きですか・・・相手の好きなものやきれいなものを聞いてわかる
第2時	好き嫌いをたずねてみよう・・・自分の好ききらいを答える
第3時(本時)	好き嫌いをたずねてみよう・・・相手に好ききらいをたずねる
第4時	自己紹介をしよう・・・相手に好ききらいをたずねる

6 本時の活動

(1) 本時の目標

- ・相手に好き嫌いをたずねる。
- ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする。

(2) 展開

過程	・学習活動 ◎児童の活動 ○学級担任の活動	指導上の留意点	教材
あいさつ(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつの歌を歌う。 ○Hello,hello,hello,how are you? ◎I'm fine, I'm fine, I'm fine,thank you and you? ◎Hello,hello,hello,how are you? ○I'm fine, I'm fine, I'm fine,thank you and you? 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の緊張をほぐすように指導者自らが元気よくあいさつの歌を歌う。 	CD あいさつの歌
絵ビンゴ(10)	<ul style="list-style-type: none"> ・warm-up (絵ビンゴ) ○一人1枚のシートとビンゴのカード9枚をとり並べる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>pineapple apple strawberry banana fish skiing orange juice soccer baseball cat swimming ice cream milk dog rabbit bird (以上16個 英語ノートp25で出てくる単語)</p> <p>mop net ten six cloud pen bag sock red cold bus wind sad box pig web sun stop pin bed hat leg hose hand (以上24個 計30個の単語)</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・AETやJTEとのTTポイント① ・担任ともAETともあいさつする ・担任とAETとのあいさつを見せる ・担任もAETも一緒に歌を歌う。 ・立ち位置を時々交代する。 ・音楽を流し、曲が終わるまでに準備できるようにする。 	学研教材+自作カード
	<ul style="list-style-type: none"> ◎単語の発音をする ○担任の発音を聞いて繰り返す。 ◎発音した単語の絵を見せる。 ○担任の示した絵と同じカードをひっくり返す。 ◎全てのグループに一人以上ビンゴが出るまで繰り返す。 ◎ビンゴできた子にはシールを渡す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テンポよく発音する。 ・うまく発音できなかったものは、もう一度発音する。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・AETやJTEとのTTポイント② ・ネイティブの発音を聞き、発話する。 ・担任は子どもの中に入って支援。 ・時々役割を交代したり、注意を要する発音についてAETに質問する形で指導を深める。 	

<p>文字指導 (5)</p>	<p>・出てきた単語を書き写す。 ◎単語を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin: 10px 0;"> bag sun bed hat </div> <p>○練習用紙を出し、黒板に示された単語を書く。 ○早く書き終わった子には、書きたい単語を自由に書いてよいことを指示する。</p>	<p>・特に書き間違えの多い文字 (a/d n/h a/u h/b b/d p/q r/v r/n) に注意を促す。 (机間指導及び事後のノートの観察) ・一つの単語につき3回ずつ書かせる。</p>	<p>英語ファイル (練習用紙)</p>
<p>展開 (28)</p>	<p>【Activity】 インタビュー ○やり方をデモンストレーションで示す。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>①教室内を歩き出くわした子に声をかける。 ○Excuse me ~. Do you like~? ②相手の好みを当てられたら、相手の名刺をもらう。外れたら、😊 に色をぬる。 ◎Yes, I do. → 名刺獲得 / No, I don't. → 😊 獲得</p> <p>○Thank you. ◎You are welcome. ③役割を交代する。 ④次の相手に声をかける。②③</p> <p>* 以上の内容を5分間繰り返す。</p> </div> <p>◎自分の好きなものを選ぶ。(飲み物、食べ物から1つ。スポーツから1つ。動物から1つ。計3つ) ○友達の好きなもの、嫌いなものを予想して、友達にインタビューする。当たると名刺を獲得できること、外れても😊を獲得できること、2回戦行うことを説明指す。 ◎一人目は隣の席の友達にインタビューする。(2人目からは自由に)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>AETやJTEとのTTポイント③ ・担任とAETとで例示。 * 表情とアクションを豊かに ゲームの内容のみならずよりよいコミュニケーションの方法を示す。</p> </div> <p>・結果の発表をする。</p> <p>○獲得枚数3枚以上、インタビュー人数5人以上から聞く。 ◎獲得名刺の枚数、インタビュー人数を発表する。 ○インタビューして分かったことを発表するよう指示する。 ◎誰が何を好きか発表する。</p>	<p>・子どもの中からボランティアを募り、自分たちにできる気持ちを持たせる。 ・何人にインタビューできたか？何人の好みを当てられたか？友達と競わせることで、必要感を持たせる。 ・約束1：同じ子には1回しかインタビューできない。 ・約束2：もらった名刺は大切に使う。(名刺ホルダーにはらせる。) ・約束3：男の子は女の子に、女の子は男の子にも必ずインタビューする。 ・約束4：インタビューするときは相手の目を見て話そう。 ・Do you like~?の表現を使えなかったり、単語の発音ができず、絵で指し示したりしても、コミュニケーションをとろうとすることができれば許容する。 ・インタビュー結果を紹介することで、互いの好き嫌いに興味を持たせるようにする。</p>	<p>(英語ノート) 英語ファイル</p>
<p>あいさつ (1)</p>	<p>I like dogs. Taro and Mei and Ken like dogs, too.</p> <p>・さよならの歌を歌う ○Good-bye. good-bye ,good-bye to you. Good-bye. good-bye ,oh, see you again. ◎Good-bye. good-bye ,good-bye to you. Good-bye. good-bye ,oh, see you again.</p>	<p>・次回の英語も楽しみになるよう、楽しく歌う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>AETやJTEとのTTポイント⑤ ・担任ともAETともあいさつする ・担任とAETとのあいさつを見せる ・AETに本時の子どもたちの活動をほめてもらう。</p> </div>	<p>CD さよならの歌</p>

7 板書計画

絵ビンゴ

書いてみよう

bag
sun
bed
hat

インタビューしよう

Excuse me ~. Do you like ~?

Yes, I do. → 名しゲット / No, I don't. → 😊 ゲット

Thank you.

You are welcome.


 pineapple


 apple


 strawberry


 banana


 orange juice


 ice cream


 milk


 baseball


 soccer


 swimming


 skiing

「ふりがな」について・・・

できれば、ふりがなをふらずに指導したい。

初めての単語を扱う時や長文を読む時など、間違えないようにしたり、不安を取り除いたりするために補助的に示す場合がある。

ふりがなをふるときには、平仮名でふると音の柔らかさなどが表現できてよい。


 cat


 rabbit


 bird


 dog


 fish

約束1：同じ子には1回しかインタビューできない。

約束2：もらった名しは大切にしよう。(後で、名しホルダーにはろう。)

約束3：男の子は女の子に、女の子は男の子にも必ずインタビューしよう。

約束4：インタビューするときは相手の目を見て話そう。

(5) 研究協議による検証

①授業者の振り返り

- ・子どもたちがにぎやかだった
- ・時間が気になり、前時までに似たような経験をさせていたのでアクティビティのデモンストレーションをカットした。そのためゲームの仕方がうまく伝わらず、子どもからの質問が多くなってしまった。
- ・子どもたちは **Bingo** が大好き。発話するのも好きになった。

②早稲田大学 保崎則雄先生より

- ・今の子どもたちには「音」「コミュニケーション」が、絶対的に足りていない。
- ・45分の授業の中で、子どもたちがどれだけ「音」出していたか（発音していたか）が重要。
- ・「書き写す」だけでなく、「聞き写す」必要がある。
- ・今、目の前にいる子どもたちに何が必要なのかを考えることが大切。
- ・先生の情熱は、子どもたちに伝わる。

③所沢市立教育センター 山本直子先生より

- ・子どもはよい発音をしていた。
- ・先生がデモンストレーションをすることは、子どもたちにとって分かりやすいというだけではない効果がある。先生のデモンストレーションを見ながら何をしているのか漠然と想像することも大事。
- ・タッチするだけで音が出て発音を練習できる電子黒板が3月までに全校に入る。

④ビンゴを取り入れた発音指導について



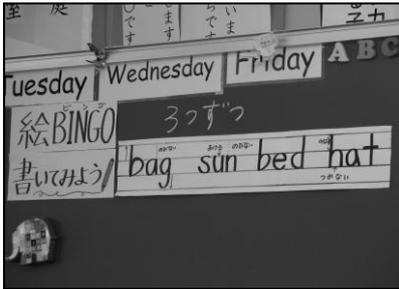
【効果】

- ◎継続して取り組んでいることからか、子どもたちがビンゴに慣れていて絵を見ている子はあまりいなかった。音で反応していた。
- ◎フォニックスと比較すると、音に集中するのはフォニックスだが、システムとして **bingo** がとても有効であると感じた。子どもたちも声をよく出していた。

【より効果的にするための視点】

- 黒板に背を向ける子がでないよう座席の配置を工夫していく。
- 取り上げる単語について、今回は英語ノートに基づいて作成したが、短く簡単な単語に絞ったり、あえて発音の似た単語 (**box** と **fox** など) を入れたりする方法も考える。
- 今回提案できた「小学校で共通して扱うべき英単語」をカードにしてストックする。
- 小学校では発音に自信がない先生が多いので、**AET** や **JTE** との **TT** を工夫したり、**CD** を作成したりしておく。

⑤「書き写す活動」を取り入れたアルファベット指導について



【効果】

- ◎5分間で子どもたちは集中して、しっかり書いていた。
- ◎時間が短いと思っていたが、十分な活動量だった。
- ◎活動時間・内容・質ともとても有効だった。

【より効果的にするための視点】

- 意味や発音も大事だが、この活動では文字の形を捉えることを目標にする。
- 空書きをするなど、4線をしっかり意識させる時間をとる。
- 板書の文字の大きさに配慮する。
- 書けた単語の数を競わせると雑になってしまうので注意する。

⑥アクティビティの工夫について



【効果】

- ◎適度なインフォメーションギャップが子どもの発話意欲を大きく高め、有効だった。
- ◎単元計画が適切で、子どもたちがスキットに慣れていた。

【より効果的にするための視点】

- スキットが完璧に言えなくても、言ってみようとする姿勢を大切にする。
- よいやりとり（コミュニケーション活動）をしている子を、とりあげほめていく。
- 色々なシチュエーションで“Do you like~?”を表現する活動を取り入れる。

Do you like だらやき？でもいい、自分が本当に伝えたい・知りたいことを伝え合う活動等と組み合わせて単元計画を組む。言葉の奥にある心を表現するやり方もある。

⑦学習過程について

【効果】

- ◎適切な学習活動が、無理なく自然な流れで構成されていた。

⑧その他の内容に関する協議内容

【効果】

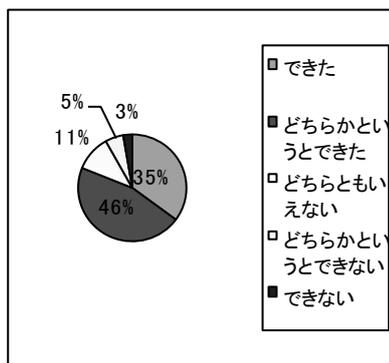
- ◎最後に、今日の4つの約束について振り返らせたのは効果的であった。

【より効果的にするための視点】

- 小学校の教員が、クラスルームイングリッシュに慣れていく。
- 発音、特に子音・音の長さ・アクセントなどを意識して練習する。

(6) 児童の意識調査による検証 11月28日(金) 38人 実施

1 大きな声で恥ずかしがらずに発音することができましたか



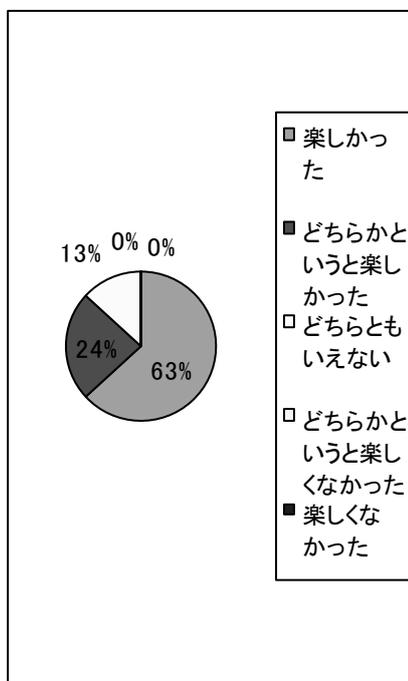
選択肢・人数	理由
できた 13	何回かやっているうちに覚えたから 分かったから 英語が楽しいから 大きな声でしゃべれた 大きな声でたくさん言えたから 自信があるから よく言えた みんなで言うから楽しかった 発音するのがおもしろい 簡単なのがたくさんできた ちゃんと覚えて言えた 英語を習っている
どちらかという 못했다 17	英語の授業は楽しかったから ちょっと恥ずかしかったけどみんなで言うとお大丈夫 発音の仕方があまり分からなくて大きな声ではできなかった 英語って発音しづらい 先生に続けて言ったから あんまり声を出していなかった 楽しかったので恥ずかしいという思いがなかった 中くらいの声でできたから たまに何て言ってるか分からなくなったときがあったけどそれ以外はできた 発音するのは楽しいから 2 恥ずかしくない 大きな声を出せなかった(のどが痛かった)
どちらとも いえない 4	大きな声だと恥ずかしいから 英語があっているか不安だったから 大きな声でできた、小さい声になったりした
どちらかという できない 2	恥ずかしかった 2
できない 1	まちがってたりするといやだから

考察

80%以上の児童が、できた・もしくはどちらかという できた と回答している。大きな声は恥

ずかしいという回答をしている児童も、発音自体ができなかったわけではないようである。今後、何度も繰り返し学習することで、自信をもつことができると考える。

2 ビンゴをしながら発音する活動は楽しかったですか

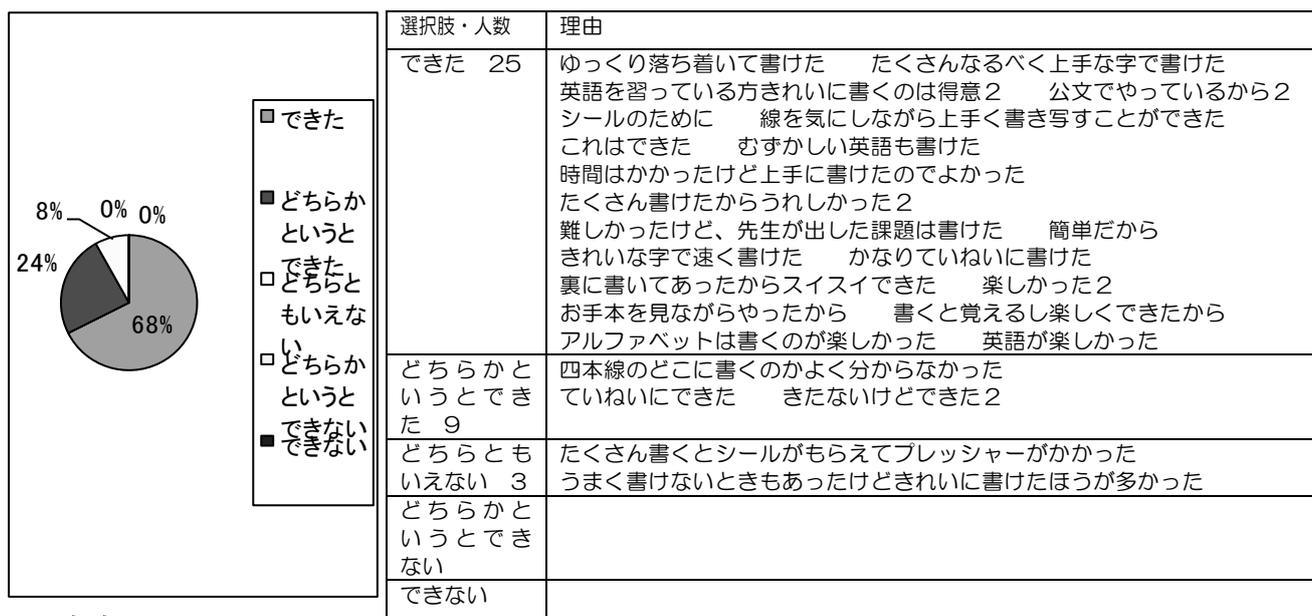


選択肢・人数	理由
楽しかった 24	いろいろなものを英語でいうから覚えられる ビンゴするとシールがもらえるから楽しかった 5 ビンゴがすきだから 2 覚えようと思ったから 先生がリズムにあっていたところが楽しかった。 発音するのも分かりやすくて楽しかった 楽しかったので発音もできた ビンゴをしてアルファベットを覚えられるのが楽しかった リズム感があって楽しかった 楽しかった 4 いろいろな言葉を発音できて面白かった シールがもらえるのが楽しくて面白かったのでやる気になった ビンゴになるとうれしい
どちらかという 楽しかった 9	ビンゴしながらだと発音しやすい シールがもらえるのがうれしかった 3 発音してビンゴするのは楽しかった たまに言い忘れちゃうところがあったけどちょっとできなかった
どちらとも いえない 5	先生の発音で「fox」が「box」に聞こえたのはなぜ 友達や班の人のを見てしゃべったときがあった。でもちゃんとやれた あまり大きな声ではできなかった
どちらかという 楽しくなかった	
楽しくなかった	

考察

ご褒美のシールにつられている児童もいたが、そこをきっかけにビンゴというゲームの持つ魅力により、楽しみながら発音することができていたようである。子音とアクセントの位置についての指導者研修、AETとの連携も必要である。

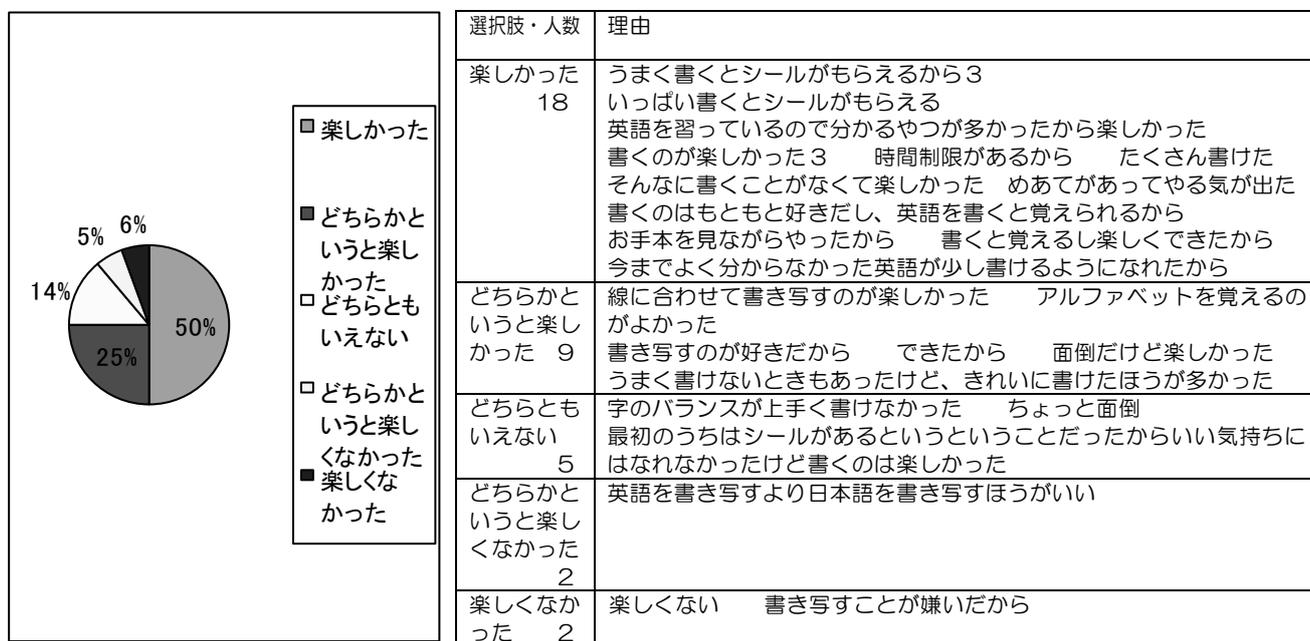
3 アルファベットを書き写すことができましたか



考察

90%を超える児童ができたと回答している。書き写すだけの活動ではあるが、書けるといいうことが「できた」という気持ちにもつながり、「もっと書きたい」という意欲として表れた。実際に子どもたちの書いている様子を見てみると、真剣そのものでシーンとした空気の中で一生懸命に書いていた。

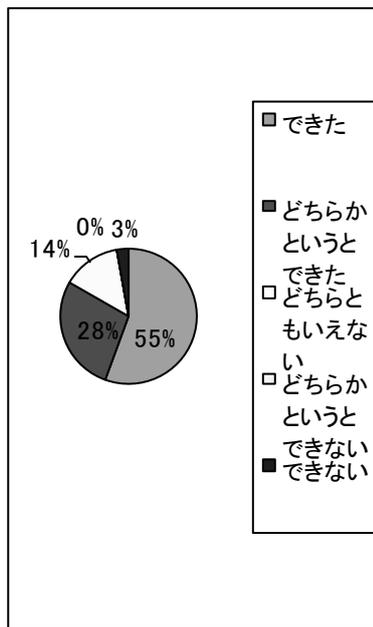
4 書き写す活動は楽しかったですか



考察

75%の児童が、書き写す活動が楽しかったと回答している。問3での結果と総合すると高学年段階の知的欲求に合った活動であったといえる。楽しかった理由を自由記述で書いた児童の言葉からもそのことがうかがえる。一方、普段の授業で板書を書き写すことを苦手としている児童は、“書く”という行為自体が苦手で、内容が英語に代わっても苦手意識はぬぐいきれなかった。楽しくなかったと回答している児童には、個別のさらなる手立てが必要となる。

5 自分の好き嫌いを話すこと、友達の好き嫌いを聞くこと、自己紹介をすることができましたか

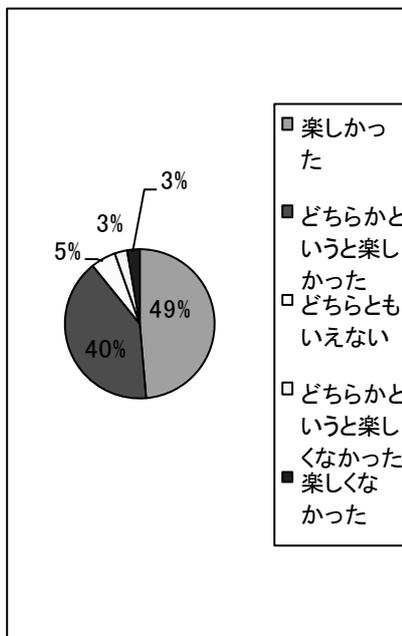


選択肢・人数	理由
できた 20	話をした人に好き嫌いのことで悪口を言われたいから 名刺交換ができた 簡単だった2 シャベっていると楽しい2 友達のも聞いていて楽しかった 英語を自分から話すことができた 自分の好き嫌いを話して、友達の好き嫌いを聞くのはなんか恥ずかしかったけどできた 自分のことを知ってもらうのがうれしい ひとの好き嫌いを聞くのが楽しかった2 15人以上とやった たくさんの人と話せた2 英語で会話できて面白かった 名刺をもらうのが面白いし楽しい2
どちらかというともいえない 10	女の子とはできたけど、男のことはできなかった2 楽しかった 少し恥ずかしかったけど楽しかった2
どちらともいえない 5	好きでも嫌いでもない スラスラとはいかなかった 友達の嫌いなものとか聞いてこうなのが嫌いなんだと分かるから 男の子には積極的にとは言えなかった(1人)女の子にはアイコンタクトして言えた
どちらかというともいえない 1	面倒

考察

80%を超える児童ができたと回答している。コミュニケーションが学習の目標の一つであるため、異性の児童にも必ず話しかけることを約束にしていた。そのことが高学年の児童にとっては「嫌だ」と感じる場面があったようである。反面、よい機会ととらえ楽しく活動できる児童もいた。この活動も、発音と同様、経験を重ねることで克服できると考える。

6 5の活動は楽しかったですか

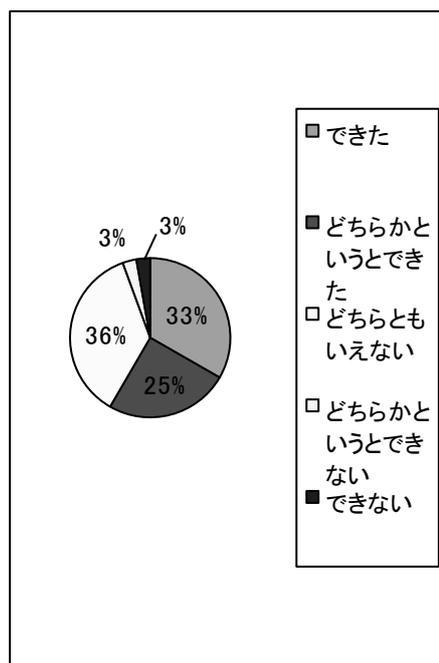


選択肢・人数	理由
楽しかった 18	初めて英語で話したから 英語が好きだから シャベっていると楽しい2 友達の好き嫌いを聞いて楽しかった 今までは話せなかったけど話せるようになったいろいろ聞いて、自分のことを話して楽しかった 友達のいろいろな所がわかった いろいろな人と英語で話すのが楽しかった3 たくさん話せた 友達とできたから
どちらかというともいえない 15	友達の好きなものを知ることができてよかった2 みんなのことがよく分かった 名刺がもらえるとうれしかった なんとなくできた 友情が少し深まった気がする 英語で会話できた 面倒だった
どちらともいえない 2	自分のことを言うのに少し戸惑った
どちらかというともいえない 1	女子とやるのは無理やりという感じでやった。もっと気軽に自己紹介しないと英語が嫌いになっちゃう
楽しくなかった 1	

考察

90%近い児童が楽しかった・どちらかというともいえないと回答している。予想以上に英語で会話すること、相手のことが分かることが楽しいと感じている児童が多かった。普段日本語でコミュニケーションをとっていて、知っていることばかりなのではと思っていたが、英語だからこそできるコミュニケーションがあるのだということを考えさせられる結果であった。

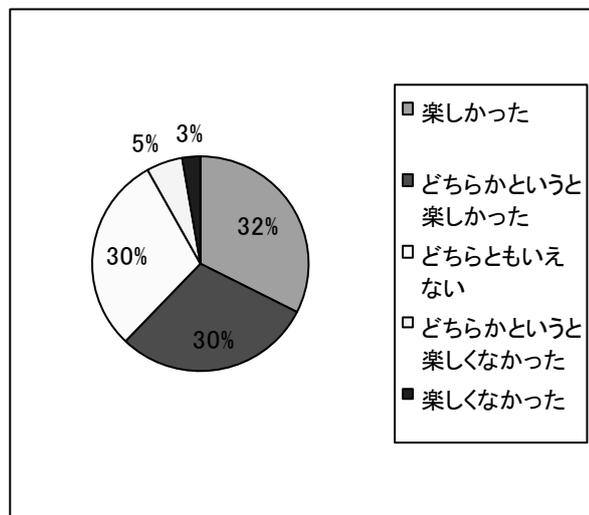
7 積極的に友達とコミュニケーションをとることができましたか



考察

コミュニケーション自体はとれていたようであるが、積極的にいとなると疑問を感じる児童が多いようである。特に今回、異性の児童とのコミュニケーションも約束に入っており、恥ずかしい気持ちがありながら一生懸命声をかけたという児童にとって、積極的とはいえないという自己評価につながったようだ。

8 コミュニケーションをとることは楽しかったですか



考察

7で積極的という疑問が残る児童が多かったため、楽しかったか？と考えた時にも、どちらともいいがたいと感じる児童が30%にのぼった。ただ、嫌いというわけでもない。繰り返し学習することで、コミュニケーションをとる経験を積むことができ、自信を持って活動することができるようになると思う。

V まとめ（成果と課題）

本研究では、教師の戸惑い、そしてなにより子どもの戸惑いを解消するために「中学校に上がってくる複数の小学校で、子どもの英語への慣れ、既習の内容が違いすぎる。これを何とかしてほしい。」「発音指導や文字指導はしなくていいのだろうか。」といった現場の教師の声から、小学校外国語活動の授業づくりに取り組んだ。小学校と中学校を「聞くこと」の線・「発音すること」の線・「書くこと」の線・「コミュニケーションに生かすこと」の線で繋ぎ、それぞれについて何を、いつから、どのように扱うかを明らかにし、すぐに実践に生かせるような具体的な提案を目指してきた。

研究の成果については、本文各項での具体的な提案、そして、提案授業後のアンケートに記された子どもたちの言葉そのものが成果であるのだが、最後に要約した形で成果と課題をまとめ、結びとする。

1 成果

(1) 中学校へスムーズに接続するための視点および具体的な手立てを提案でき、実践を通して効果を検証できたこと

- ①少なくとも所沢市内の小学校で共有できる「小学校で共通して扱うべき単語一覧」を作成でき、別の小学校外国語活動準備委員会等へも資料として提案ができた。
- ②アルファベット指導の留意点を明確にするとともに、指導方法を例示できた。アルファベットに慣れる活動は、高学年段階の児童の知的欲求に合った活動であることが確かめられた。
- ③発音の指導について、10分程度で継続して取り組める2つの指導方法を具体的に提案できた。日常の授業に無理なく効果的に取り入れることができることを確かめられた。

(2) 中学校へのスムーズな接続に繋がる手立てを取り入れた1つの授業モデルを提案でき、効果を検証できたこと

- ①1単位時間の学習過程の中に、「聞くこと」「発音に慣れること」「書いてみること」「コミュニケーションに生かすこと」のそれぞれについての提案を無理なく生かした授業モデルを提案できた。
- ②子どもが英語に慣れ親しみ自然に吸収する形で基礎を培い、かつ、中学1年の英語にスムーズに接続する外国語活動の授業の有効性を確かめられた。単元計画の中で様々なコミュニケーション活動を取り入れることや、必要に応じTT等の指導形態を取り入れることで、さらに効果的に展開できる可能性を見出せた。

2 今後の課題

(1) 既に問題となっている、異なった指導方法・内容を経験してきた子どもたちが一つの中学校区に入学してくることによる子どもと教師の戸惑いを、極力早期に解決できるよう、本研究の取組を広げ役立てていくこと。

(2) 長期的な展望に立ったとき、義務教育9年間を見通したカリキュラム（指導段階）の見直しが必要になる。その際、本研究の取組を1つの切り口として役立てていくこと。